

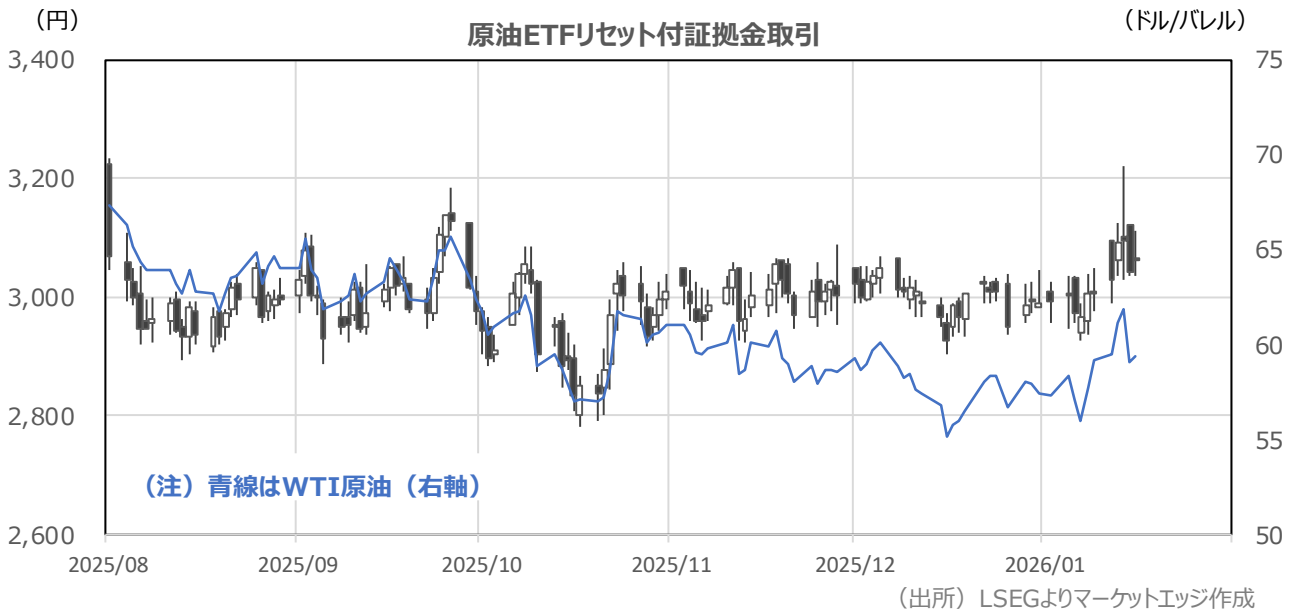
原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2026/01/19号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



2ヵ月半ぶりを高値更新も、60ドル台維持できず

NY原油先物相場は、1バレル=62.36ドルまで値上がりして昨年10月24日以来の高値を更新した後、59ドル台前半まで反落し、前週比ではほぼ横ばいの展開になった。週前半は、イランの反政府デモの広がりが警戒され、上値追いの展開になった。治安部隊とデモ隊の衝突で数千人単位の死者が報告されていること、トランプ米大統領がイランと取引がある国に対して関税を課す方針を示したことなどが警戒された。ただし、週後半はトランプ大統領が、治安当局のデモ隊参加者に対する殺害が止んだとの認識を示したため、米国がデモ隊支援のために軍事介入に踏み切るリスクは低下したとの評価から、利食い売り優勢の展開になった。結果的に戻り高値を更新したものの、明確なトレンドを形成できていない。

マーケットの関心はベネズエラからイラン情勢にシフトしている。最も警戒されたシナリオは、米国が軍事介入を行い、イランが中東の米軍基地に対して報復攻撃を行うことで、中東全体で軍事的な緊張感が高まる展開だった。しかし、そうしたリスクが後退したとの見方が、原油相場の反発力を限定した。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（1月9日時点）は、原油が前週比339万バレル増、ガソリンが898万バレル増、石油精製品が3万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

【展望】

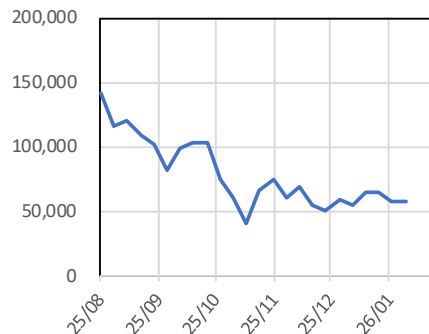
地政学リスクで荒れた展開も、戻りは売られる展開に

不安定な地政学環境を背景に上下双方に揺れ動く展開になるも、急伸局面では売り妙味が維持されよう。年初からベネズエラ、イラン、イエメンなど産油国に関連した地政学リスクのイベントが多発しているが、原油相場は最近のボックス相場内での反発にとどまっており、上値の重さが再確認されている。大規模な供給過剰が発生していること、石油輸出国機構（OPEC）プラスが十分な増産余力を残しているため、深刻な需給ひっ迫状態は発生しないとの楽観的な見方が強い。イラン情勢などによっては、直近高値62.36ドルを上抜く可能性を想定しておく必要があるものの、戻り売り優勢の地合は崩れない見通しだ。

イラン情勢は先行き不透明感が強い。生活苦への不満が全国規模のデモに発展しているが、どのような形で収束させることができるのか見通しが立たない。直ちにイラン産原油の供給環境に大きな変化が想定されているわけではないが、イランのデモ隊弾圧に対しては批判の声も強く、米欧などの制裁が原油供給に混乱を引き起こすリスクは残される。ただし、中東全域で大規模な軍事衝突が発生するような最悪の状況に発展しないのであれば、原油需給の緩和見通しが大きく修正されることはない。従来通りに、安値低迷相場の中で、地政学リスクが瞬間的な上昇リスクをもたらす動きが見られるか否かが焦点になろう。

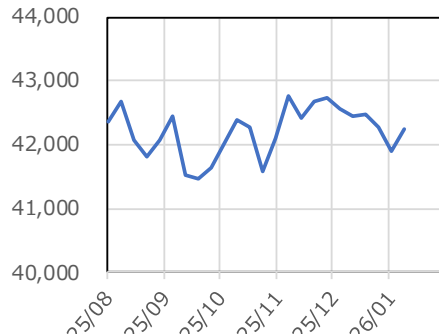
1月19日に中国の10～12月期国内総生産（GDP）などの経済指標が発表されること、21日に国際エネルギー機関（IEA）月報が発表されることがイベントリスクになる。特にIEAが強力な需給緩和見通しを示すと、上値の重さが再確認される可能性が高まる。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



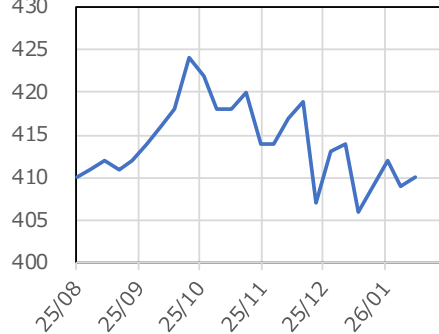
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒104-0033 東京都中央区新川1-3-21 BIZ SMART 茅場町 321号

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL：03-6661-9498 【E-mail】 info@markededge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

